

教員名	友岡邦之	所属学科	地域づくり学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>本ゼミは、人々の文化的経験に対して、地域社会に関連する諸要因が与える影響を主な研究対象としています。研究対象の具体例としては、自治体文化政策の現状、美術館・博物館・文化ホールなどの文化施設の運営、フェスティバルやイベントの実施効果、地域文化・伝統芸能の現代的意義、コミュニティおよびコミュニケーション環境の現状、そして文化政策をめぐる思想的問題などが挙げられます。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>当ゼミでは3年次に進級論文を執筆します。読書・調査・執筆に対して積極的に取り組もうとする意思が必要です。また、私自身が群馬県内をはじめとした地域づくりの実践的活動に複数かかわっているため、そうした活動も随時紹介していきます。</p> <p>論文執筆という目標に向けて、当ゼミの活動は各自の主体的な調査がメインとなります。主な調査対象は、次の通りです：1. (主に自治体の)文化政策、2. 博物館関係施設の運営、3. 公立文化施設の運営(博物館以外)、4. 文化NPO等、市民の文化的活動、5. 文化産業・文化生産活動の展開、6. 伝統文化の保存・継承。</p> <p>ゼミ生は上記の分野から対象をそれぞれ一つ選択し、自主的に調査活動を進めます。調査状況については随時報告会を実施して批判的討議を行い、論文を執筆します。なお、いずれの調査対象領域を選択するとしても、自治体文化政策の動向と、社会学の諸理論および文化理論についての理解を深めておく必要があります。4年次では、各自の卒業論文の執筆を進める過程で、互いの論文構想について討論してもらいます。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>調査研究と論文の執筆は、そのまま社会で活躍していくための基本スキルとなります。なぜなら、論文執筆とは自分の主張を他者に納得してもらうために、説得力のある根拠を用意し、論理的かつ誰もが理解しやすい形式で語ることだからです。当ゼミは地域政策に関わる題材を用いて、そのための能力を徹底的に鍛えることをめざします。その結果として、当ゼミは自治体、新聞社、金融機関等に多くの有能な人材を輩出しています。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <p>フリードリヒ・フォン・ハイエク『隷従への道：全体主義と自由』東京創元社</p>			
<p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p>考えること、そして考えたことを文章化することを好きになってください。また本ゼミは、自発的かつ大量の読書と、現場に出る際に必要とされる“社会人としてのマナー”の習得を強く要求します。とはいえ、何よりも研究することの楽しさを感じてほしいと願っています。</p>			